

平成24年度第2回 かわさき市民アンケート 概要版

調査の概要

調査設計等	◆調査対象 川崎市在住の満20歳以上の男女個人 ◆標本数 3,000 標本 ◆標本抽出 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出	◆調査方法 郵送法 ◆調査期間 平成24年11月1日(木)～11月22日(木) ◆有効回収数 1,400 標本 ◆有効回収率 46.7%
調査項目	1 定住状況について 2 生活環境の評価について 3 関心ごとと行動範囲について 4 市政に対する評価と要望について 5 川崎市自治基本条例について	6 男女共同参画社会の形成について 7 川崎市の緑の満足度について 8 かわさきの農業について 9 住まいの良質化に向けた取組について

※ 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数（人）	構成比（%）
1 男性	564	40.3
2 女性	802	57.3
(無回答)	34	2.4
合 計	1,400	100.0

2 居住区別

	基数（人）	構成比（%）
1 川崎区	196	14.0
2 幸区	163	11.6
3 中原区	220	15.7
4 高津区	218	15.6
5 宮前区	200	14.3
6 多摩区	199	14.2
7 麻生区	185	13.2
(無回答)	19	1.4
合 計	1,400	100.0

3 性／年代別

	全体		男性		女性		無回答	
	基数（人）	構成比（%）	基数（人）	構成比（%）	基数（人）	構成比（%）	基数（人）	構成比（%）
1 20歳代	148	10.6	56	9.9	92	11.5	—	—
2 30歳代	288	20.6	109	19.3	178	22.2	1	2.9
3 40歳代	285	20.4	106	18.8	179	22.3	—	—
4 50歳代	190	13.6	79	14.0	111	13.8	—	—
5 60歳代	279	19.9	126	22.3	153	19.1	—	—
6 70歳以上	179	12.8	88	15.6	89	11.1	2	5.9
(無回答)	31	2.2	—	—	—	—	31	91.2
合 計	1,400	100.0	564	100.0	802	100.0	34	100.0

1 定住状況について

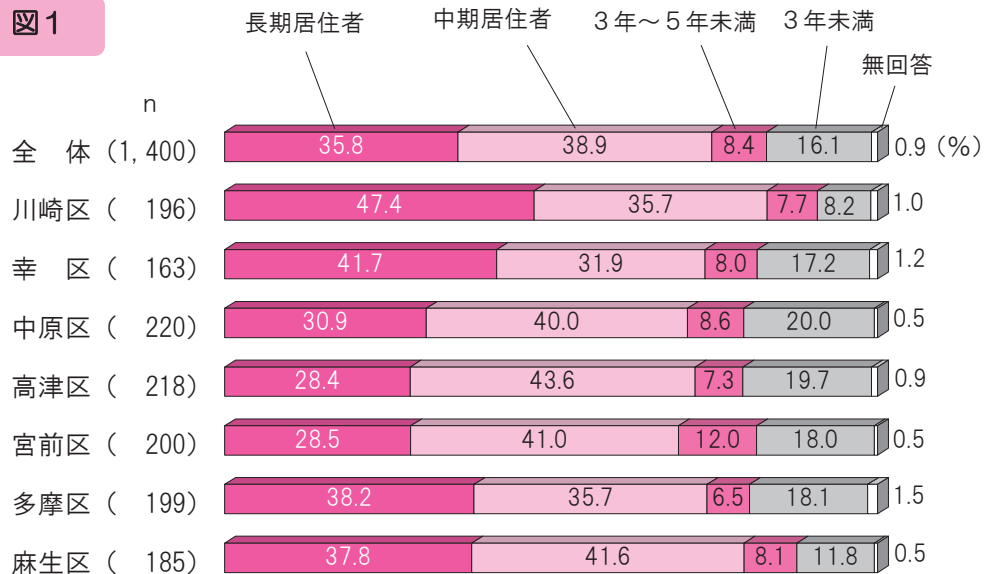
1 居住年数

居住年数を聞いた。居住区別でみると、＜長期居住者※¹＞は川崎区（47.4%）が4割台後半で最も高くなっている。＜中期居住者※²＞は、高津区（43.6%）が最も高くなっている。一方、「3年未満」は、中原区（20.0%）が2割と最も高くなっている。

※1 長期居住者：居住年数が20年以上

※2 中期居住者：居住年数が5年以上～20年未満

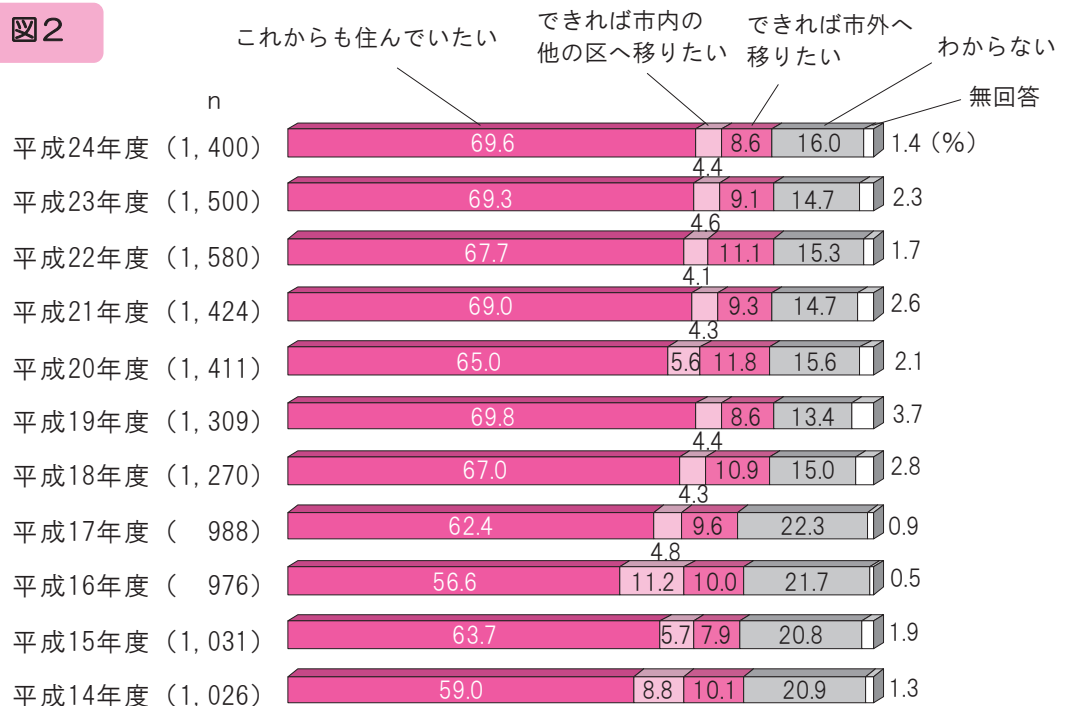
図1



2 定住意向

定住意向を聞いた。「これからも住んでいたい」（69.6%）は約7割となっており、10年前（平成14年度）との比較でみると、10.6ポイント増加している。

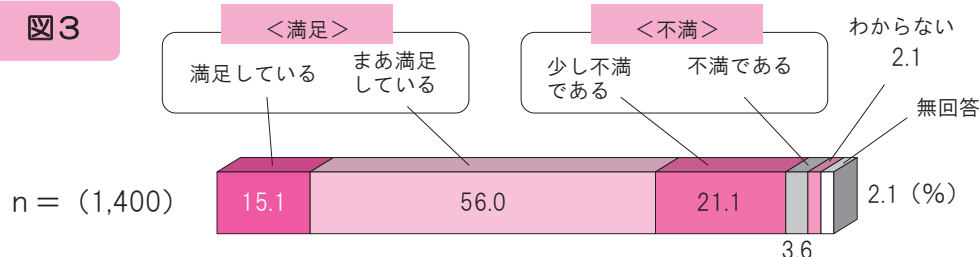
図2



2 生活環境の評価について

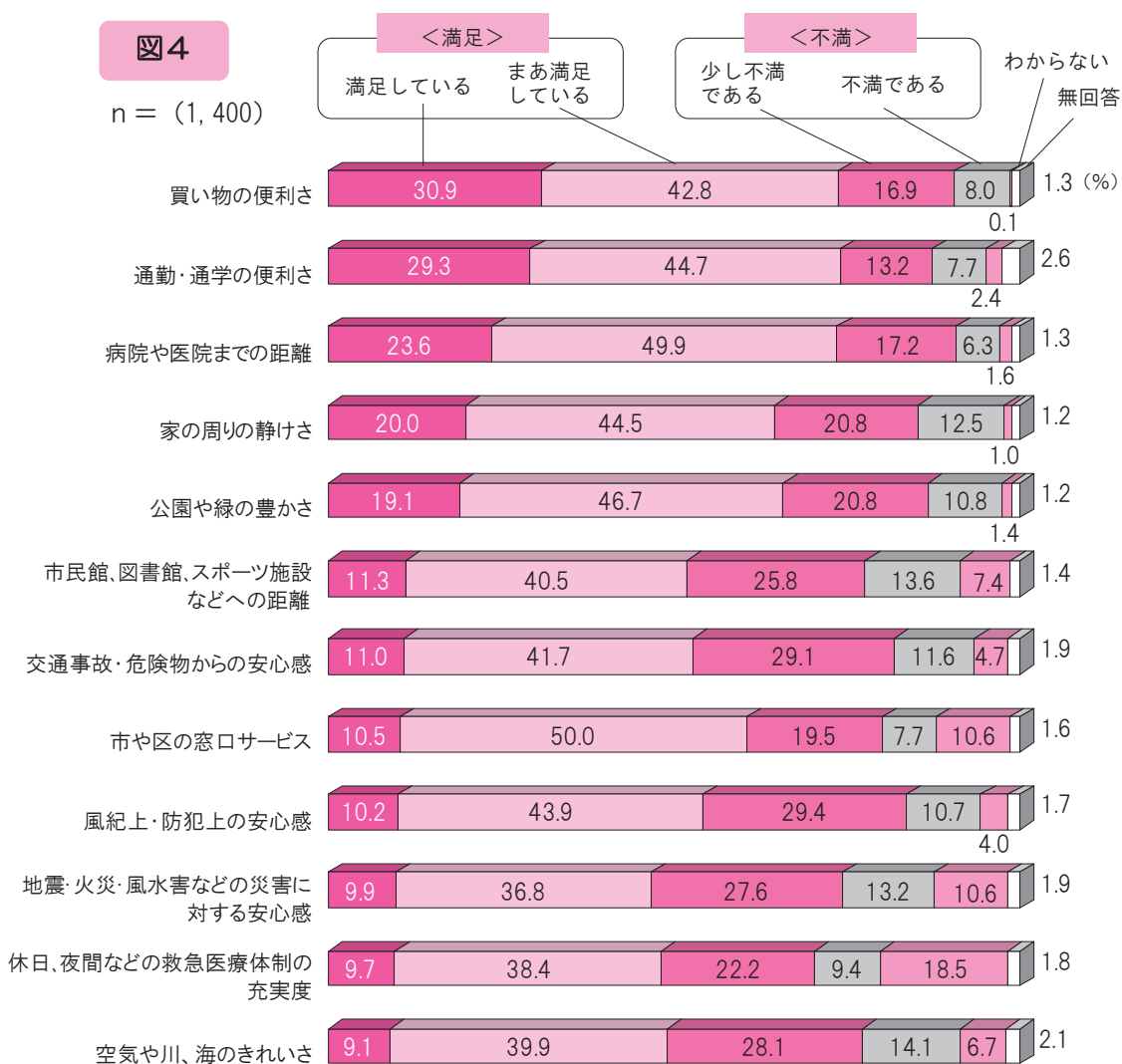
1 総合的な生活環境の満足度

生活環境の評価について、総合的な満足度を聞いた。「満足している」(15.1%)と「まあ満足している」(56.0%)を合わせた<満足>は7割を超えている。一方、「少し不満である」(21.1%)と「不満である」(3.6%)を合わせた<不満>は2割半ばとなっている。



2 生活環境の満足度

生活環境の評価について、各項目の満足度を聞いた。「満足している」と「まあ満足している」を合わせた<満足>は、「買い物の便利さ」(73.7%)、「通勤・通学の便利さ」(74.0%)、「病院や医院までの距離」(73.5%)が7割を超えている。



3 関心ごとと行動範囲について

1 関心を持っていること

関心を持っていることを聞いた。「健康」(66.5%)が6割台後半で最も高くなっている。次いで、「老後の生活」(52.6%)、「家族」(48.4%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(44.1%)、「お金・財産」(41.4%)という順になっている。過去5年の推移をみても、上位3項目は「健康」「老後の生活」「家族」で変動はない。

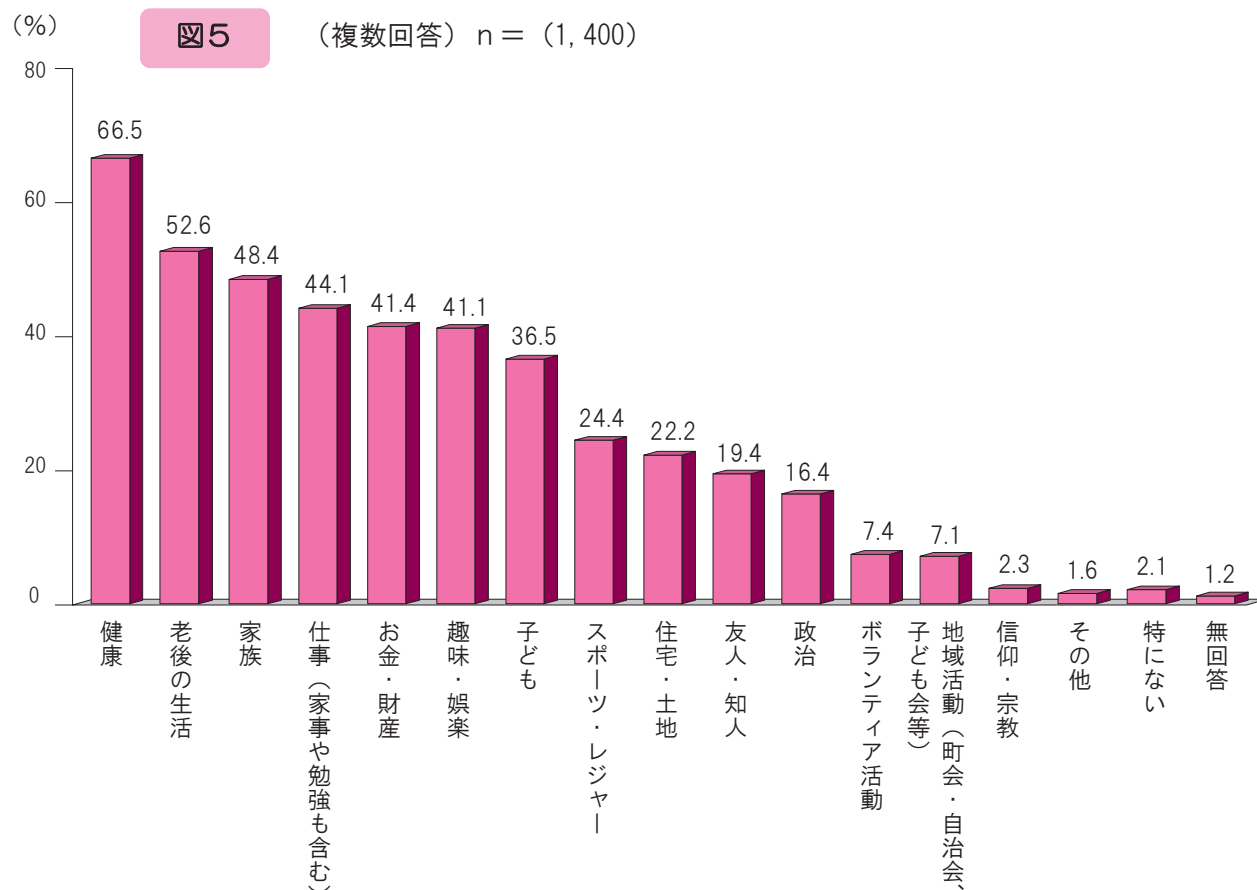


表1 過去5年経年比較(上位6項目)

(%)

年度	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
平成19年度		健康 73.2	老後の生活 52.6	家族 49.4	趣味・娯楽 41.6	仕事(家事や勉強も含む) 41.4	子ども 34.0
平成20年度		健康 68.7	老後の生活 53.2	家族 46.7	お金・財産 41.2	仕事(家事や勉強も含む) 40.3	趣味・娯楽 40.2
平成21年度		健康 70.8	老後の生活 51.6	家族 49.7	仕事(家事や勉強も含む) 43.7	趣味・娯楽 41.4	お金・財産 41.2
平成22年度		健康 66.8	老後の生活 49.5	家族 48.2	仕事(家事や勉強も含む) 43.6	お金・財産 41.6	趣味・娯楽 39.7
平成23年度		健康 71.5	老後の生活 53.4	家族 47.9	仕事(家事や勉強も含む) 41.5	お金・財産 40.3	趣味・娯楽 39.1
平成24年度		健康 66.5	老後の生活 52.6	家族 48.4	仕事(家事や勉強も含む) 44.1	お金・財産 41.4	趣味・娯楽 41.1

注:「お金・財産」は平成19年度調査までは「金・財産」であった。

2 行楽・文化施設の利用・ショッピングの場所

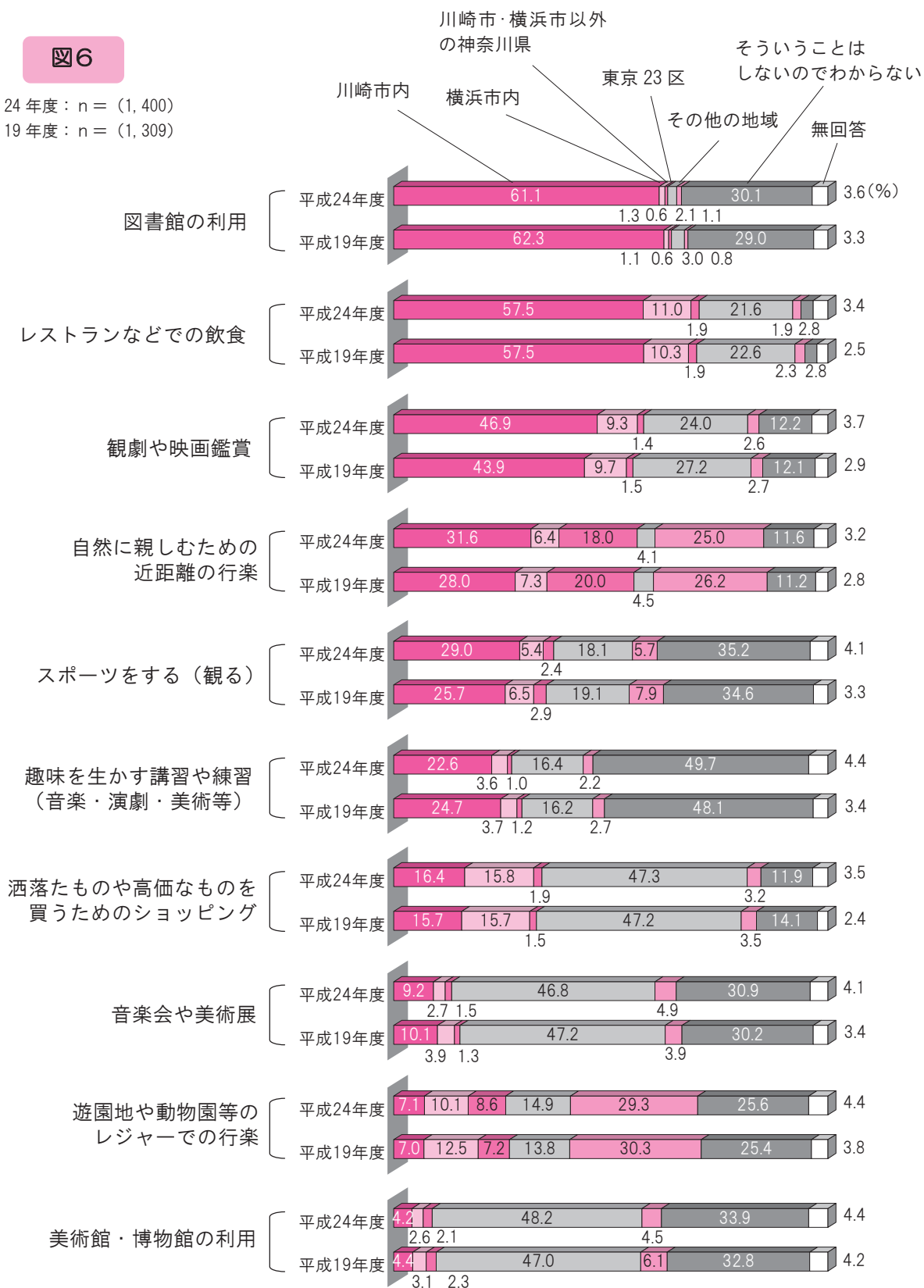
行楽や文化施設の利用、ショッピングの場所などを聞いた。『川崎市内』の利用率が高い項目は、「図書館の利用」(61.1%)、「レストランなどでの飲食」(57.5%)、「観劇や映画鑑賞」(46.9%)、「自然に親しむための近距離の行楽」(31.6%)となっている。

5年前(平成19年度)と比較してみると、「観劇や映画鑑賞」で3.0ポイント、「自然に親しむための近距離の行楽」で3.6ポイント、「スポーツをする(観る)」で3.3ポイント、それぞれ『川崎市内』の利用率が増加している。

図6

平成24年度：n = (1,400)

平成19年度：n = (1,309)



4 市政に対する評価と要望について

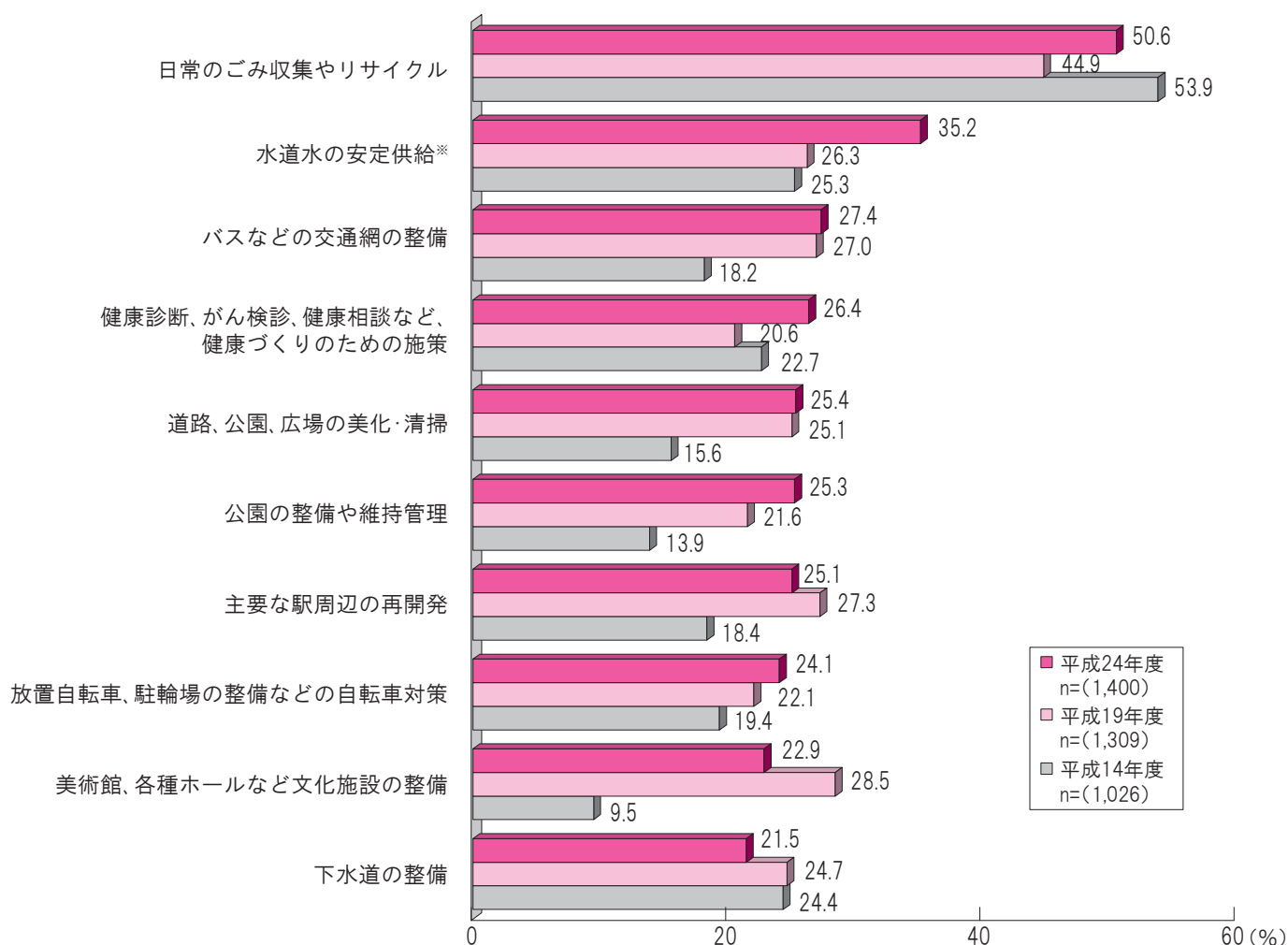
1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

市政の仕事でよくやっていると思うことを聞いた。「日常のごみ収集やリサイクル」(50.6%)が5割を超え最も高く、次いで「水道水の安定供給」(35.2%)、「バスなどの交通網の整備」(27.4%)、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(26.4%)となっている。

5年前(平成19年度)との比較でみると、「水道水の安定供給」(8.9ポイント増)、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(5.8ポイント増)、「日常のごみ収集やリサイクル」(5.7ポイント増)が5ポイント以上の増加となっている。

また、10年前(平成14年度)との比較でみると、「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」(13.4ポイント増)、「公園の整備や維持管理」(11.4ポイント増)が10ポイント以上増加している。

図7 (複数回答、上位10項目、平成19年度・平成14年度との比較)



※ 平成19年度・平成14年度調査では、「飲料水の安定供給」という選択肢表記であった。

2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

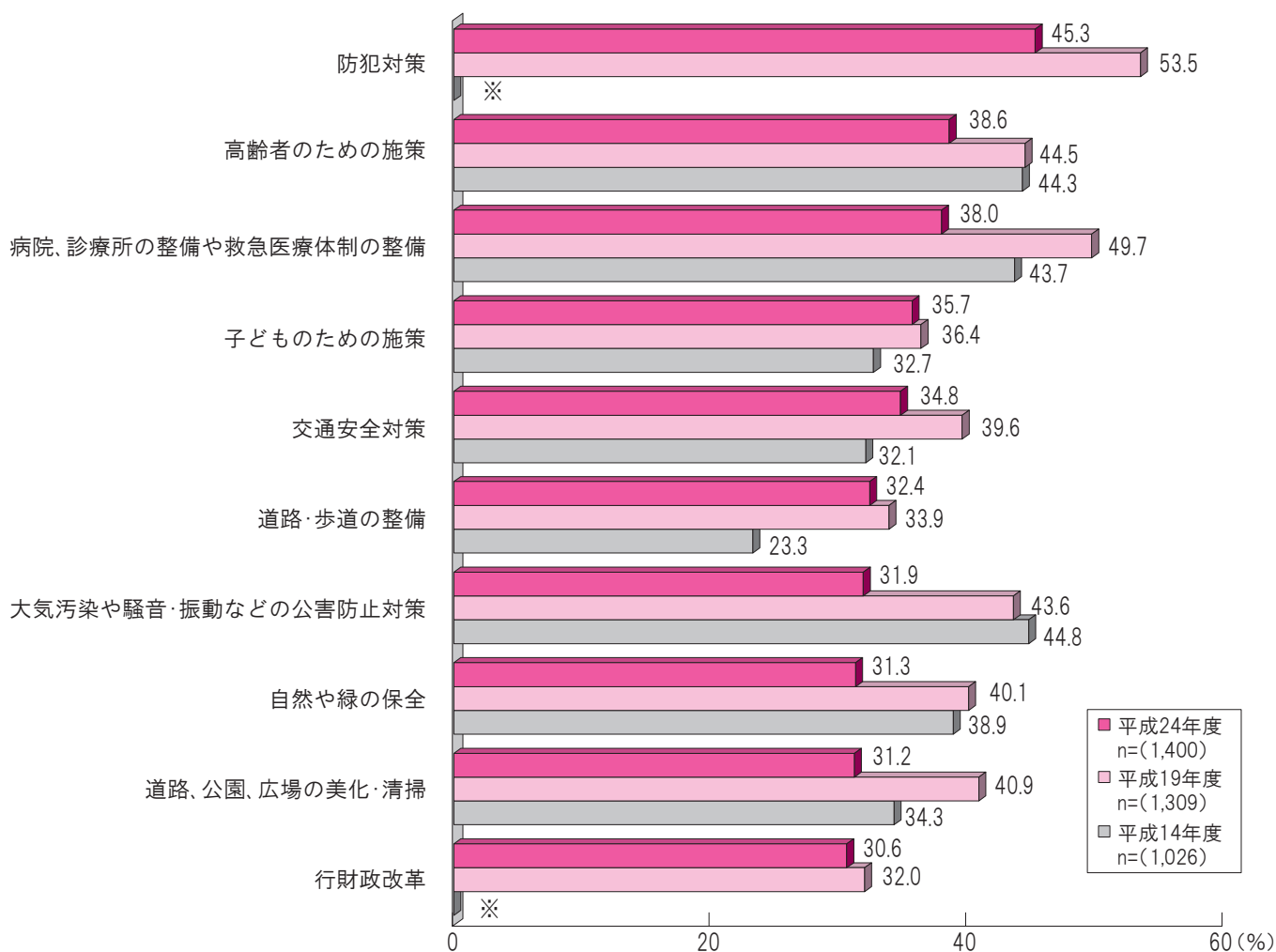
市政の仕事で今後特に力を入れてほしいことを聞いた。「防犯対策」(45.3%)が4割半ばで最も高く、次いで「高齢者のための施策」(38.6%)、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(38.0%)となっている。

5年前(平成19年度)との比較でみると、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」でそれぞれ11.7ポイント減少、「道路、公園、広場の美化・清掃」で9.7ポイント減少など、全体的に減少している。

一方、10年前(平成14年度)との比較でみると、「道路・歩道の整備」で9.1ポイント増加、「子どものための施策」で3.0ポイント増加、「交通安全対策」で2.7ポイント増加となっている。

図8

(複数回答、上位10項目、平成19年度・平成14年度との比較)



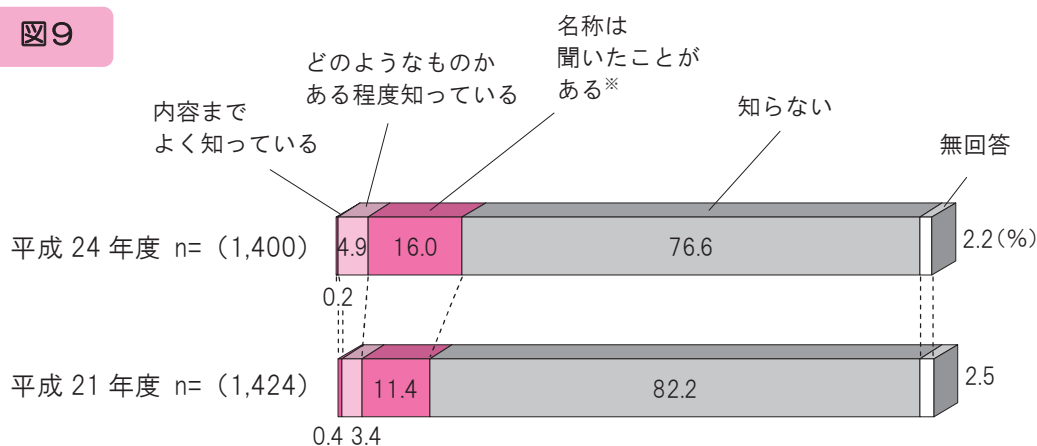
※ 平成14年度調査では、「防犯対策」「行財政改革」という選択肢はなかった。

5 川崎市自治基本条例について

1 川崎市自治基本条例の認知度

川崎市自治基本条例の認知状況を聞いた。「知らない」（76.6%）が7割を超え高くなっているものの、3年前（平成21年度）と比較してみると5.6ポイント減少しており、認知度は増加している。なお、「名称は聞いたことがある」は16.0%、「どのようなものかある程度知っている」は4.9%、「内容までよく知っている」は0.2%となっている。

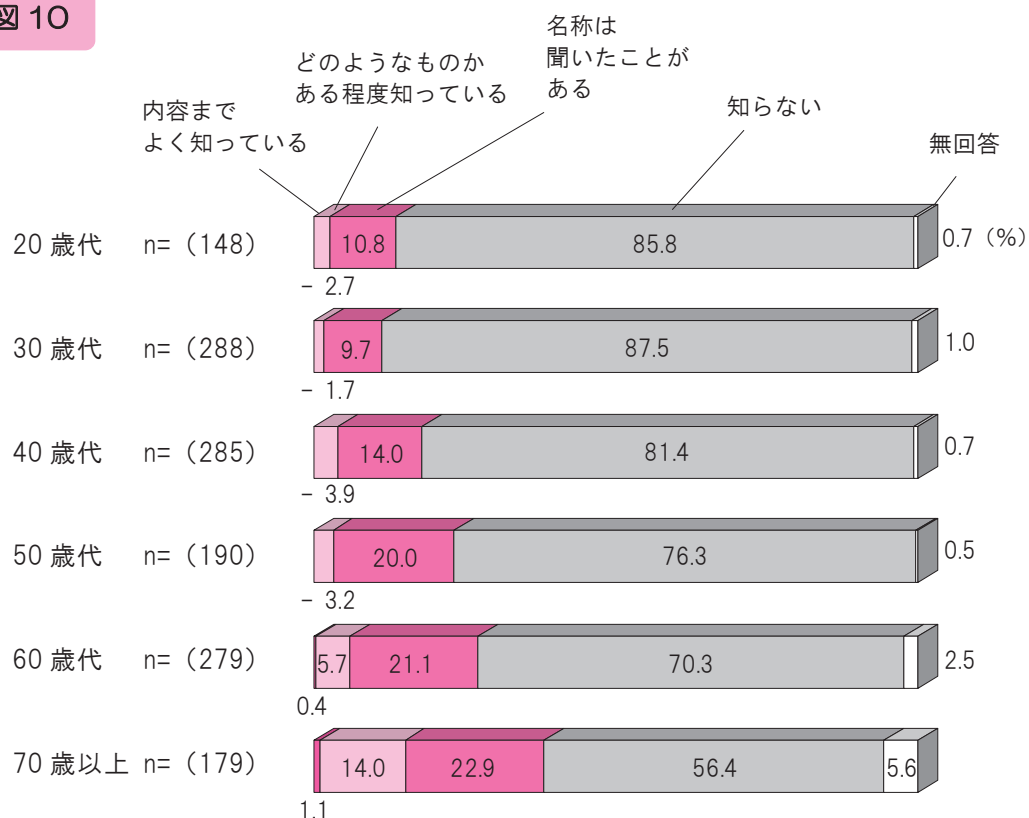
図9



※ 平成21年度調査では、「名称は知っている」という選択肢表記であった。

今年度の調査結果について年代別でみると、「知らない」は20～40歳代で8割を超えている。なお、認知度はおおむね年代が上がるにつれ高くなっている傾向がみられる。

図10

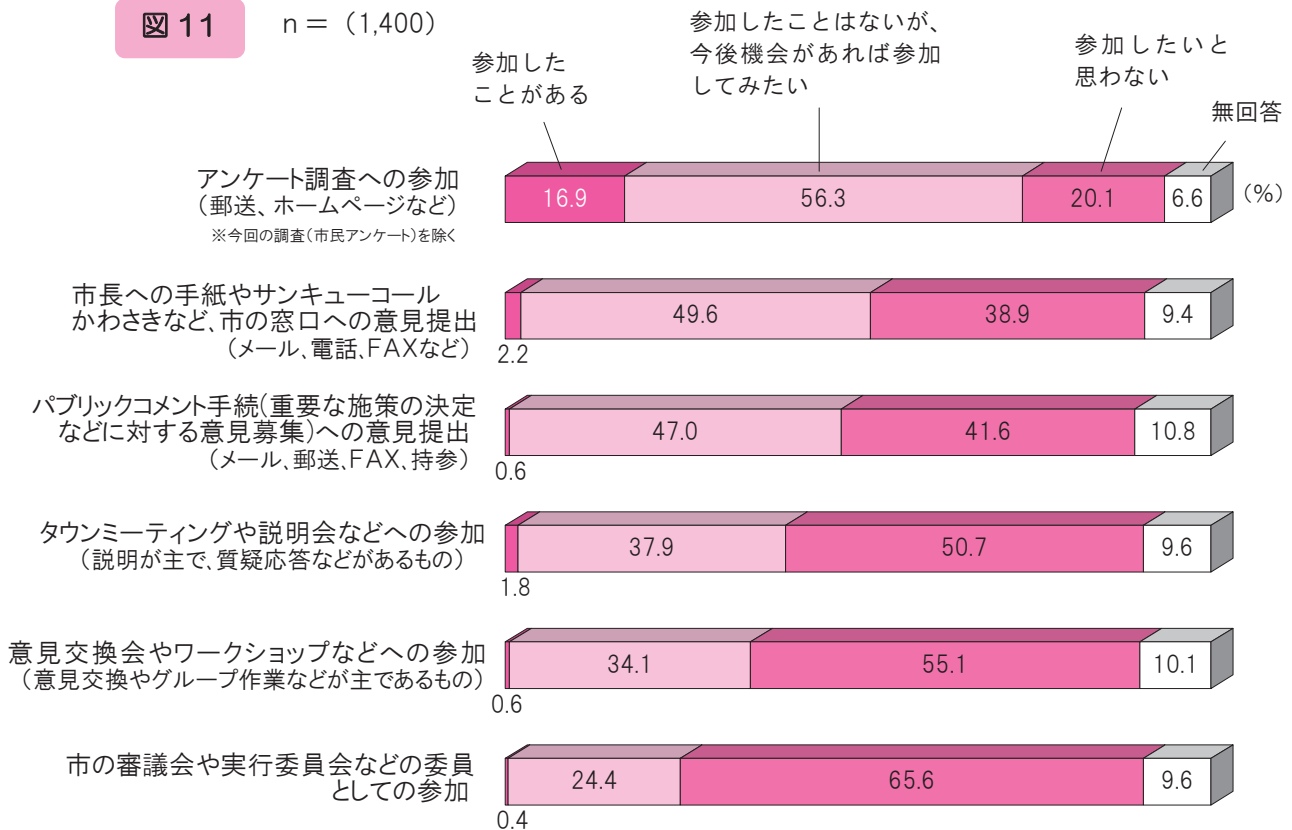


2 市政参加の方法

市政参加の方法について聞いた。『参加したことがある』は、「アンケート調査への参加」(16.9%)以外の参加方法はいずれもわずかとなっている。『参加したことはないが、今後機会があれば参加してみたい』は、「アンケート調査への参加」(56.3%)が5割半ばで最も高く、次いで「市長への手紙やサンキューコールかわさきなど、市の窓口への意見提出」(49.6%)、「パブリックコメント手続(重要な施策の決定などに対する意見募集)への意見提出」(47.0%)となっている。一方、『参加したいと思わない』は、「市の審議会や実行委員会などの委員としての参加」(65.6%)、「意見交換会やワークショップなどへの参加」(55.1%)、「タウンミーティングや説明会などへの参加」(50.7%)で5割を超えている。

図 11

n = (1,400)



6 男女共同参画社会の形成について

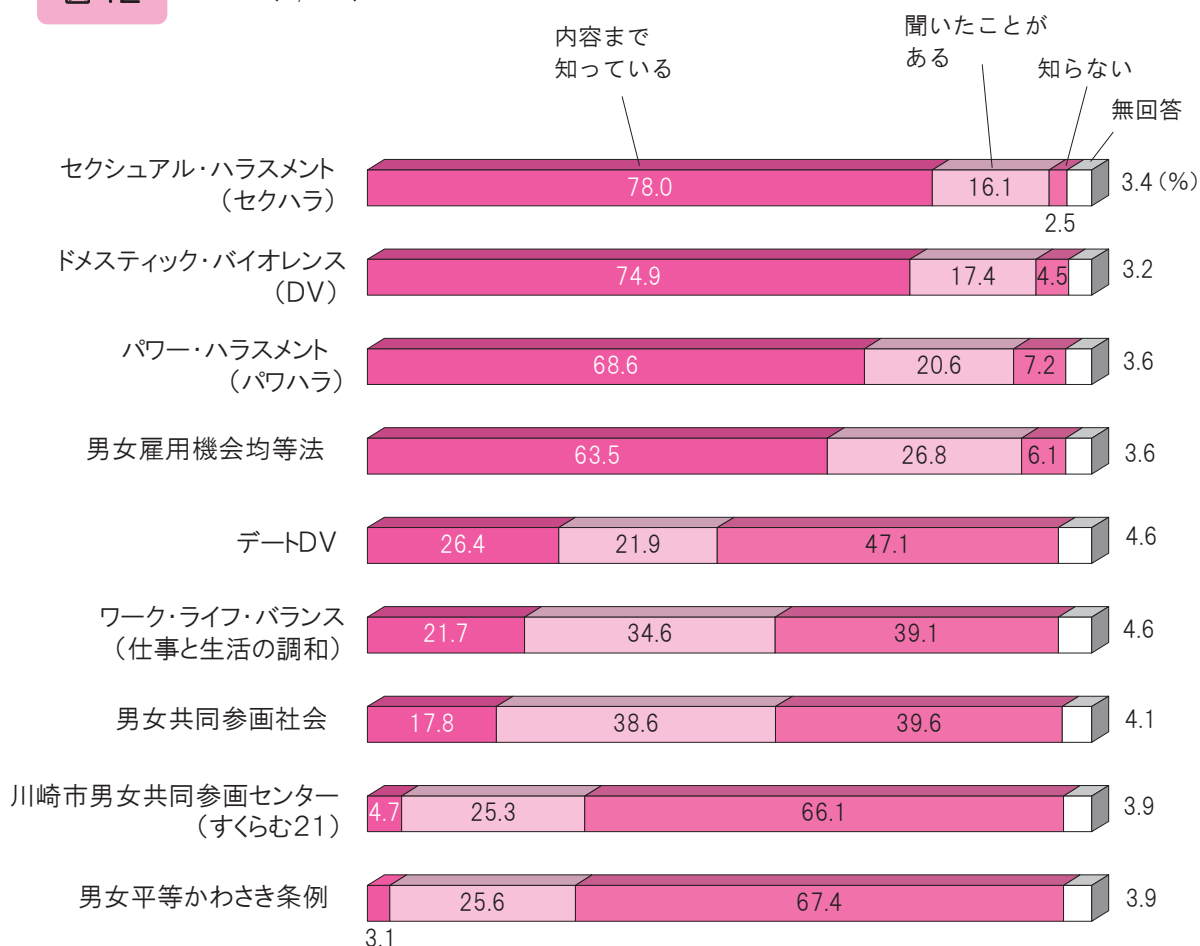
1 男女共同参画社会等の認知度

男女共同参画社会等の認知度について聞いた。『内容まで知っている』は、「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」（78.0%）、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」（74.9%）が7割台と高く、次いで「パワー・ハラスメント（パワハラ）」（68.6%）、「男女雇用機会均等法」（63.5%）が6割台となっている。

一方、『知らない』は、「男女平等かわさき条例」（67.4%）、「川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）」（66.1%）が6割台後半と高くなっている。

なお、「男女共同参画社会」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」は、『聞いたことがある』が3割台であるのに対し、『内容まで知っている』は2割前後となっている。

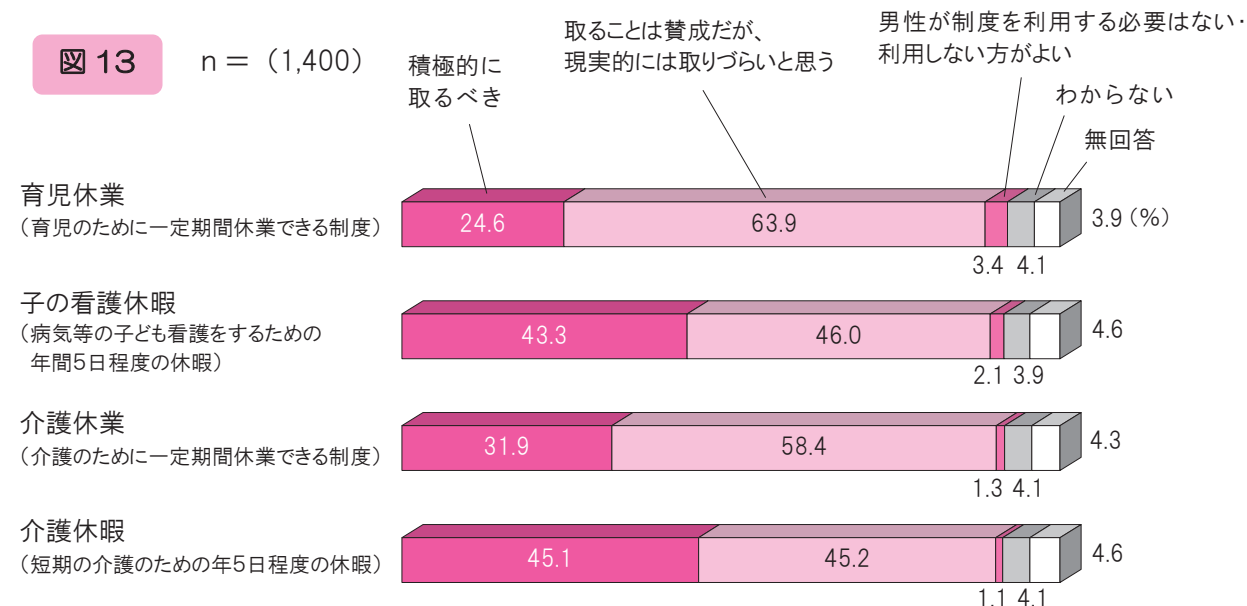
図 12 n = (1,400)



2 男性が育児休業等を取得することについて

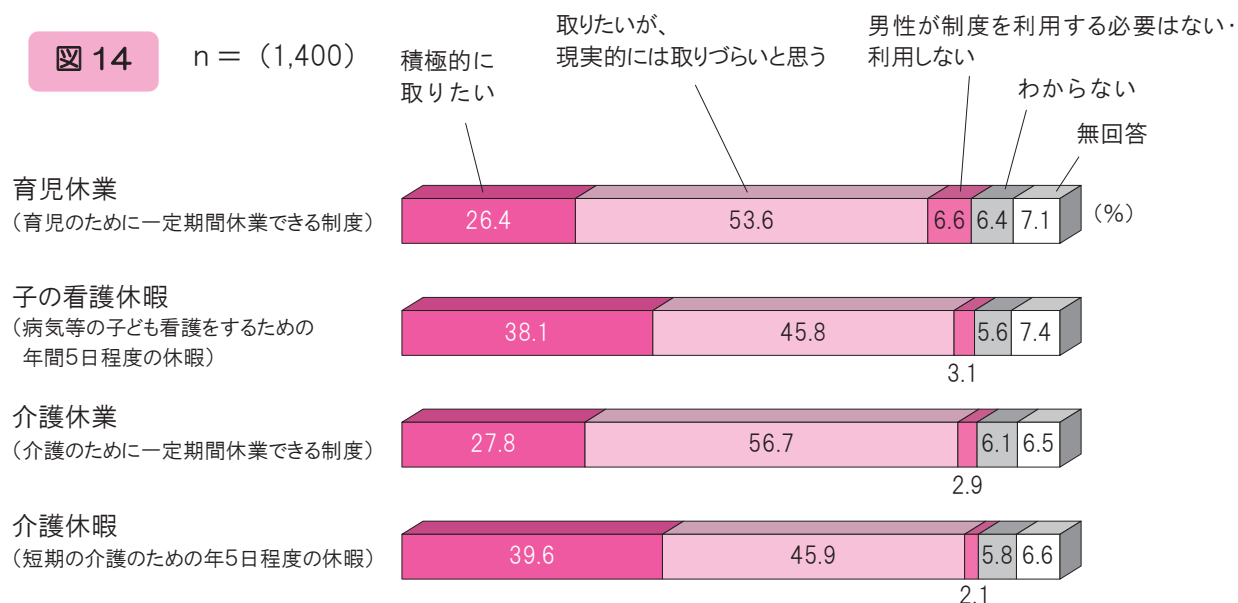
男性が育児休業等を取得することについて聞いた。まず＜一般社会＞においてどう考えるかについては、『積極的に取るべき』は、「介護休暇」（45.1%）、「子の看護休暇」（43.3%）で4割を超えている。「介護休業」（31.9%）は約3割、「育児休業」（24.6%）は2割半ばとなっている。

＜一般社会＞



次に＜自分または自分の配偶者の場合＞について聞いたところ、「介護休暇」（39.6%）、「子の看護休暇」（38.1%）、「介護休業」（27.8%）はいずれも＜一般社会＞の割合をやや下回っているのに対し、「育児休業」（26.4%）は＜一般社会＞の割合をやや上回っている。

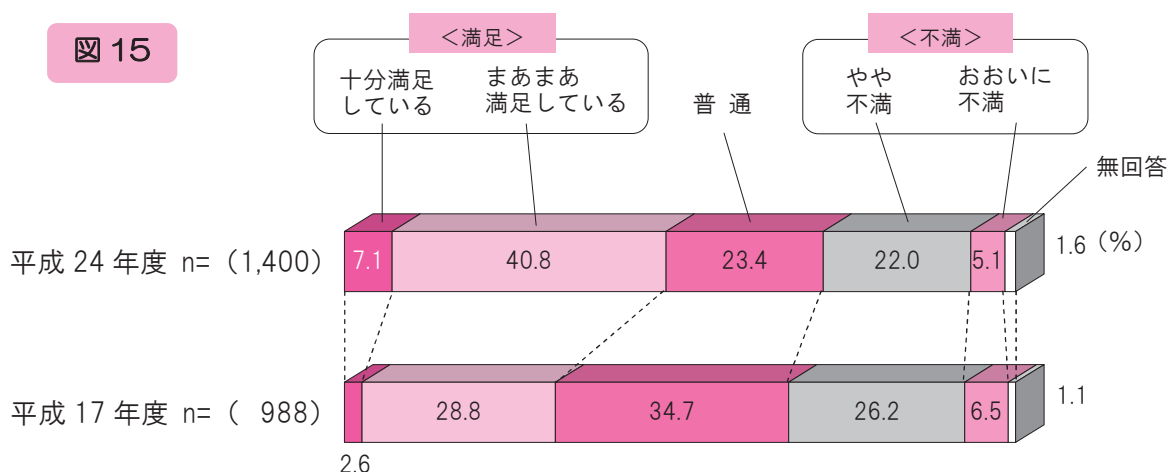
＜自分または自分の配偶者の場合＞



7 川崎市の緑の満足度について

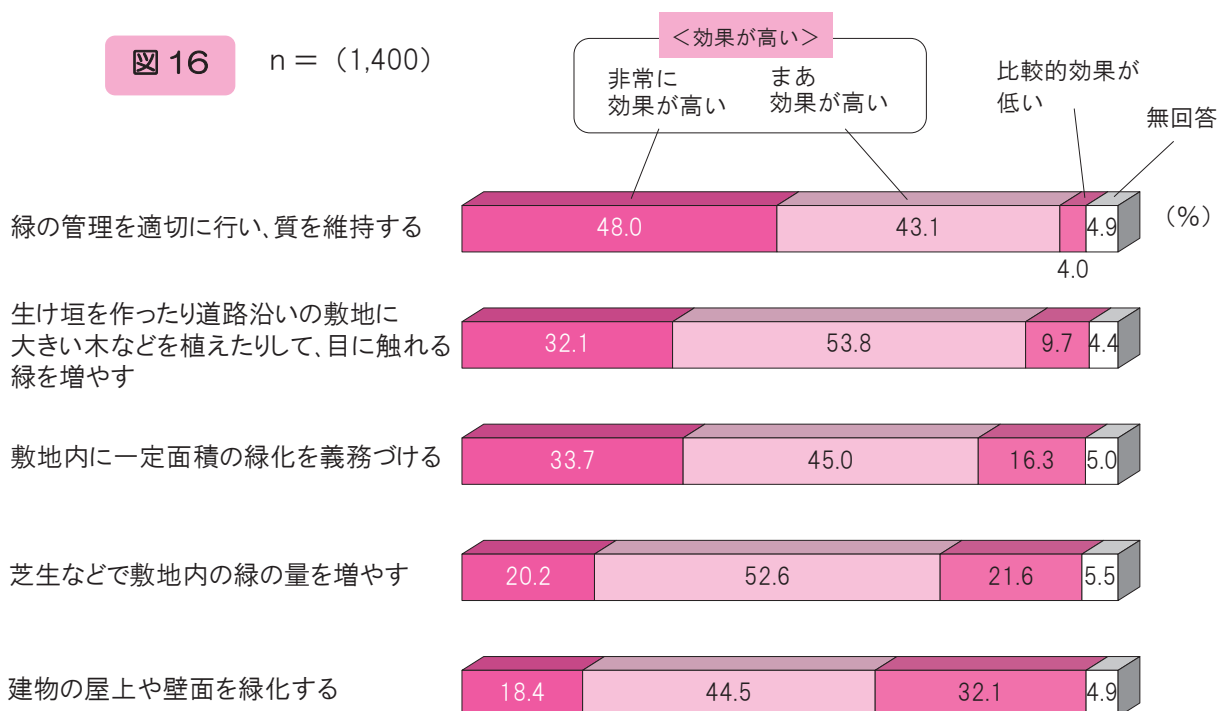
1 市域全体の緑の満足度

市域全体の緑の満足度について聞いた。「十分満足している」(7.1%)と「まあまあ満足している」(40.8%)を合わせた<満足>は5割近くとなっており、「やや不満」(22.0%)と「おおいに不満」(5.1%)を合わせた<不満>を上回っている。また、7年前(平成17年度)との比較でみると、<満足>が16.5ポイント増加している。



2 市街地を緑豊かにする方法

市街地を緑豊かにする方法について聞いた。『非常に効果が高い』と『まあ効果が高い』を合わせた<効果が高い>は、「緑の管理を適切に行い、質を維持する」(91.1%)が9割を超え最も高く、次いで「生け垣を作ったり道路沿いの敷地に大きい木などを植えたりして、目に触れる緑を増やす」(85.9%)が8割半ばとなっている。以下、「敷地内に一定面積の緑化を義務づける」(78.7%)、「芝生などで敷地内の緑の量を増やす」(72.8%)は7割台、「建物の屋上や壁面を緑化する」(62.9%)は6割台となっている。

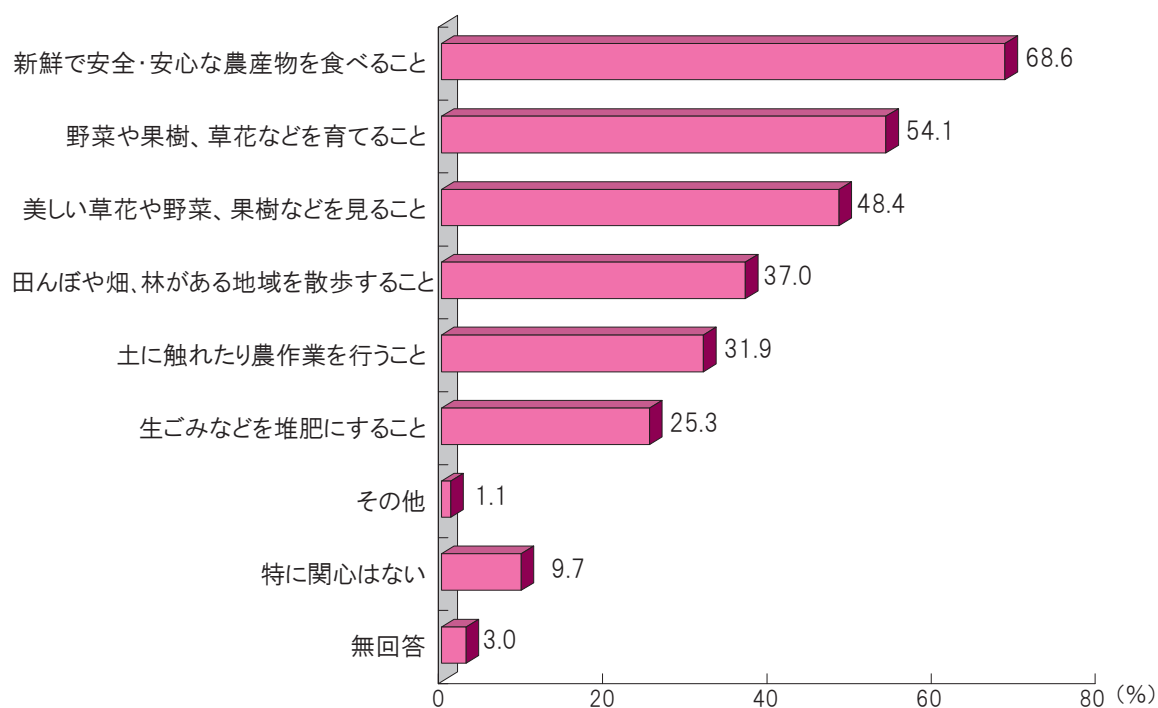


8 かわさきの農業について

1 「農」について関心のある事柄

「農」について関心のある事柄を聞いた。「新鮮で安全・安心な農産物を食べること」(68.6%)が7割近くで最も高くなっている。次いで、「野菜や果樹、草花などを育てること」(54.1%)、「美しい草花や野菜、果樹などを見ること」(48.4%)、「田んぼや畑、林がある地域を散歩すること」(37.0%)と続いている。

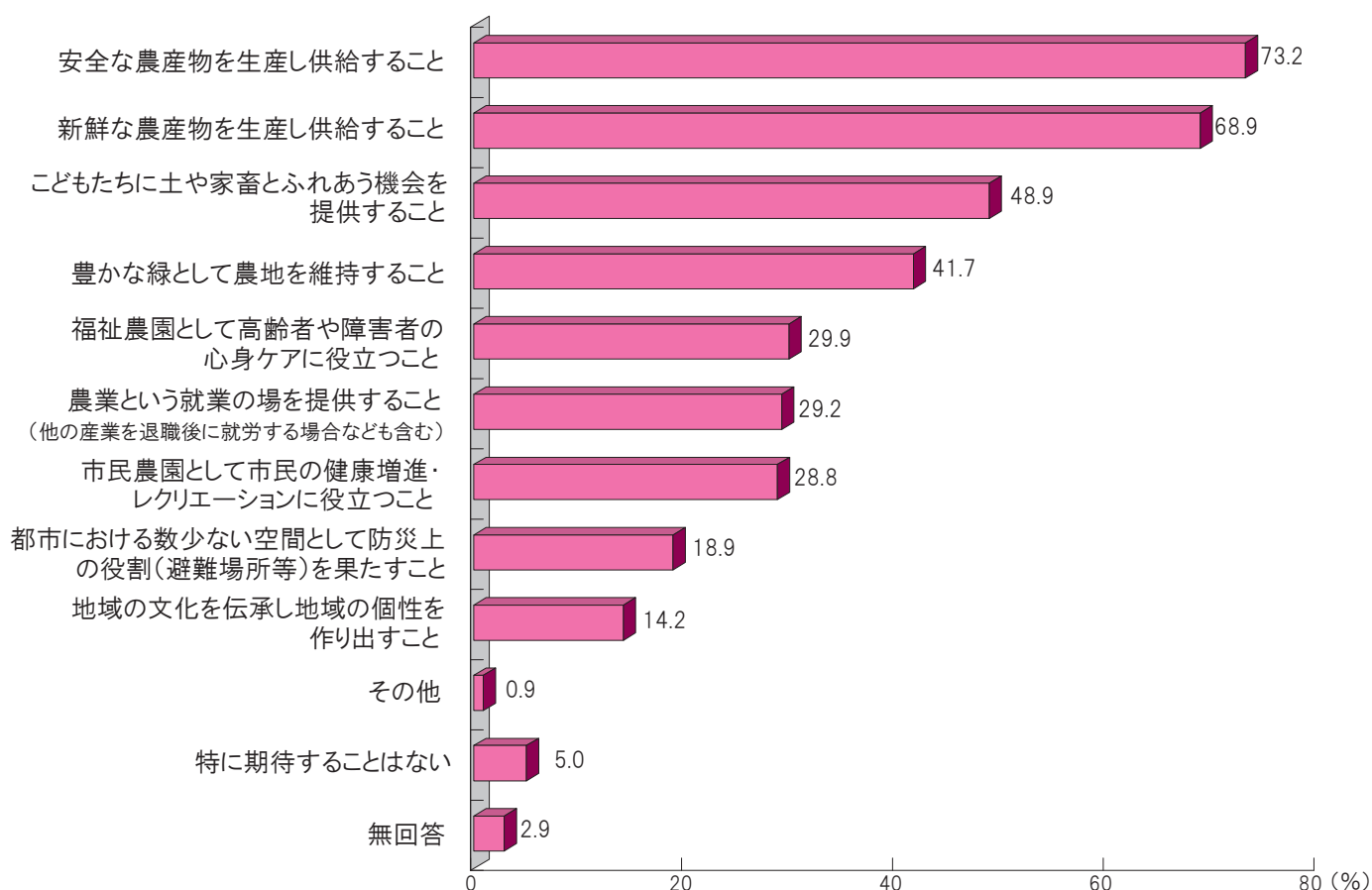
図 17 (複数回答) n = (1,400)



2 かわさきの農業に期待すること

かわさきの農業に期待することについて聞いた。「安全な農産物を生産し供給すること」(73.2%)が7割を超え最も高く、次いで「新鮮な農産物を生産し供給すること」(68.9%)となっている。以下、「こどもたちに土や家畜とふれあう機会を提供すること」(48.9%)、「豊かな緑として農地を維持すること」(41.7%)が4割台、「福祉農園として高齢者や障害者の心身ケアに役立つこと」(29.9%)、「農業という就業の場を提供すること(他の産業を退職後に就労する場合なども含む)」(29.2%)、「市民農園として市民の健康増進・レクリエーションに役立つこと」(28.8%)が3割弱で続いている。

図 18 (複数回答) n = (1,400)

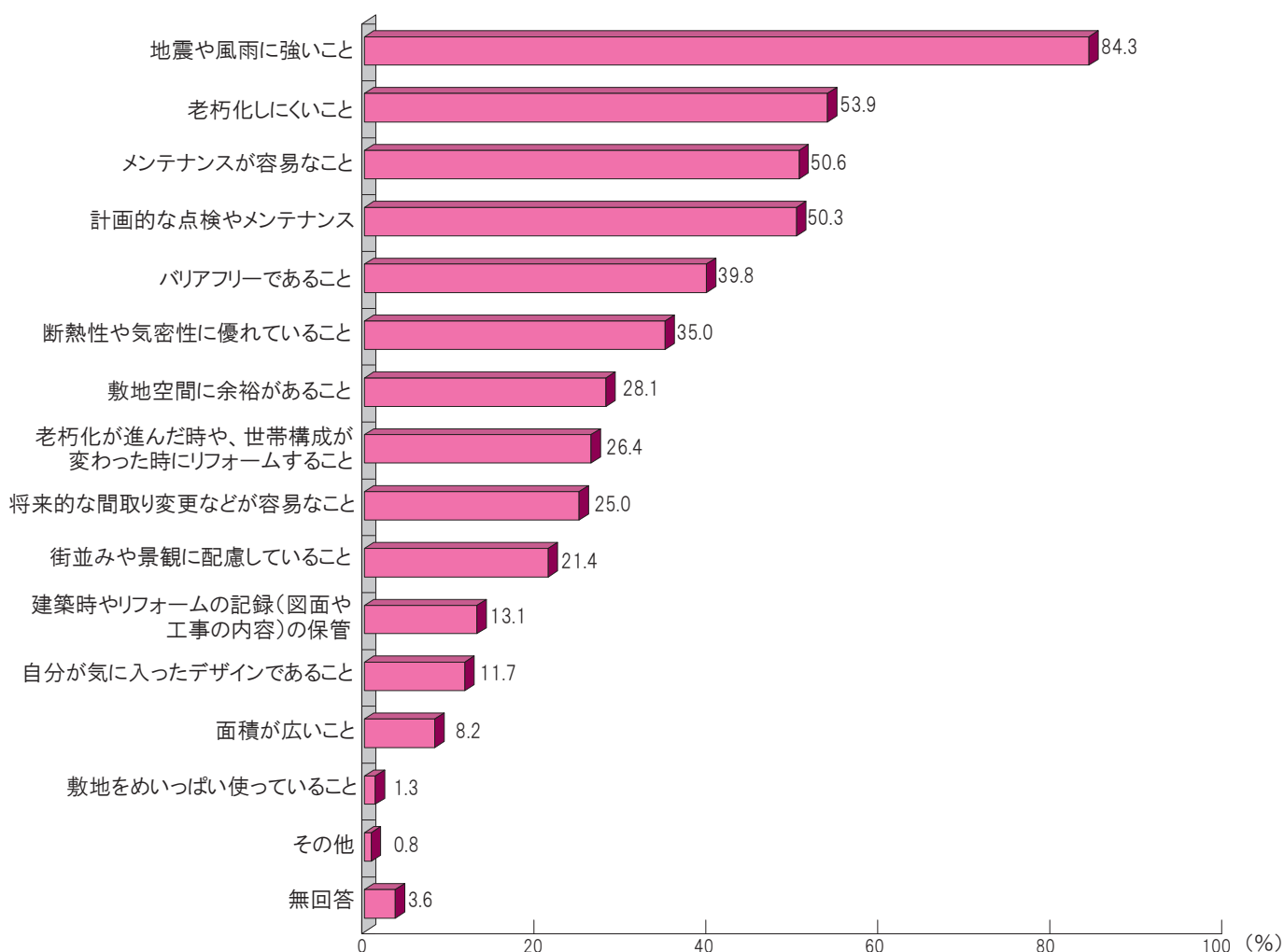


9 住まいの良質化に向けた取組について

1 住宅を長く使い続けるために重要と思うこと

住宅を長く使い続けるために重要と思うことについて聞いた。「地震や風雨に強いこと」(84.3%)が8割を超え最も高くなっている。次いで、「老朽化しにくいこと」(53.9%)、「メンテナンスが容易なこと」(50.6%)、「計画的な点検やメンテナンス」(50.3%)が5割台、「バリアフリーであること」(39.8%)、「断熱性や気密性に優れていること」(35.0%)が3割台で続いている。

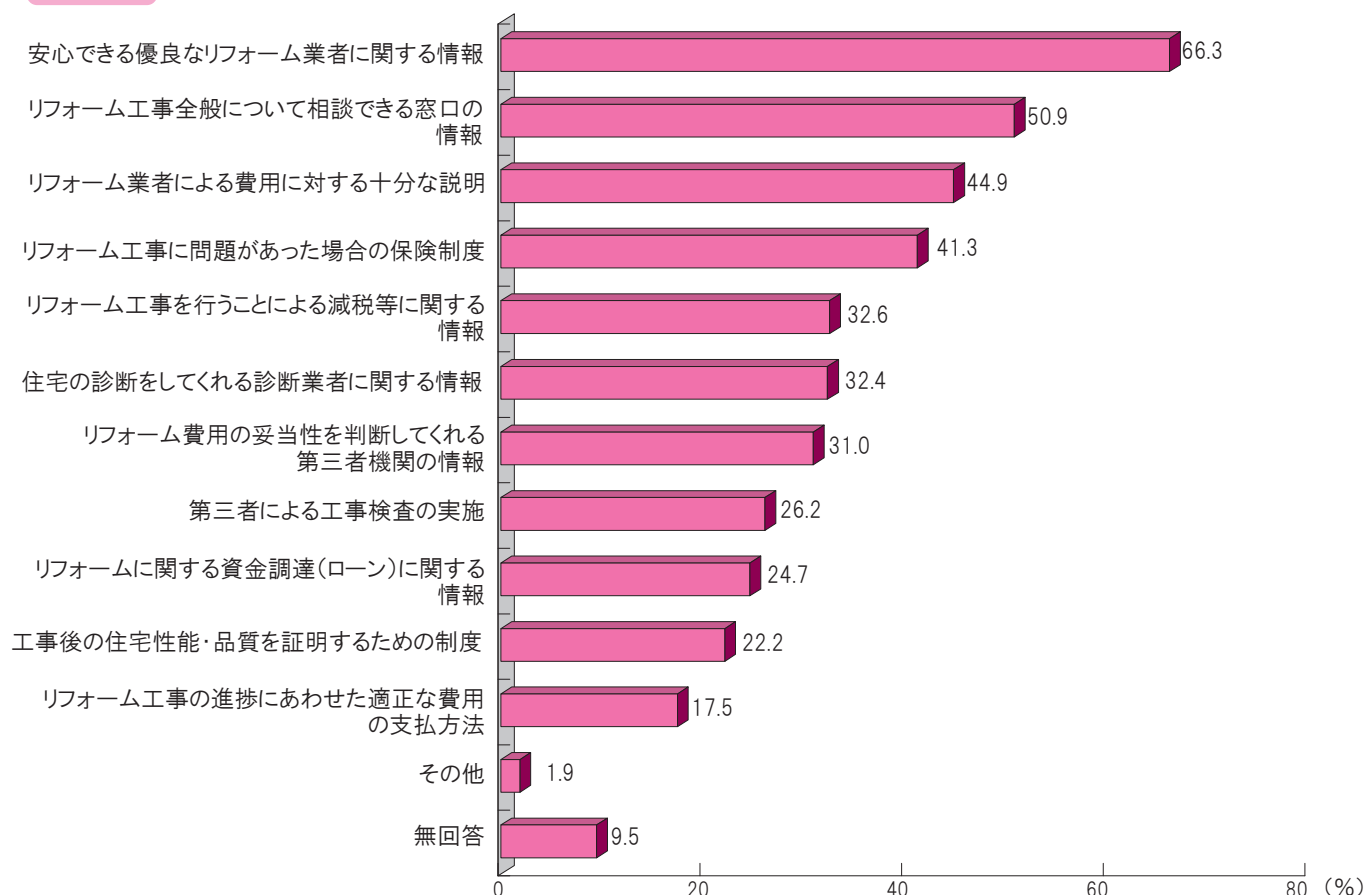
図 19 (複数回答) n = (1,400)



2 リフォームを行う場合にほしいと思う情報

リフォームを行う場合にほしいと思う情報について聞いた。「安心できる優良なリフォーム業者に関する情報」(66.3%)が6割を超え最も高く、次いで「リフォーム工事全般について相談できる窓口の情報」(50.9%)が約5割となっている。以下、「リフォーム業者による費用に対する十分な説明」(44.9%)、「リフォーム工事に問題があった場合の保険制度」(41.3%)が4割台で続いている。

図 20 (複数回答) n = (1,400)



平成24年度第2回かわさき市民アンケート概要版

平成25年2月

発行 川崎市総務局市民情報室市民の声担当

〒210-8577

川崎市川崎区宮本町1番地

電話 044-200-2291 (直通)

FAX 044-200-3919